

平成 31 年度 第 3 回 学校運営協議会

校長		副校長		教頭	
----	--	-----	--	----	--

開催日時	令和元年 12 月 21 日（土） 15 時 00 分 ～ 16 時 50 分				
場 所	秦野曾屋高等学校 東会議室				
司 会	副校長・三辻会長	記 録	大谷・齋藤		
欠 席 者	中山 恭司（つなぐ未来研究所） 望月 國男（元東海大学教授） 小松 昭一（秦野市社会福祉協議会事務局長）				

- 1 開会挨拶
  - ・副校長による開会挨拶
- 2 会長挨拶
  - ・三辻会長による挨拶
- 3 報告及び意見交換（生徒の昼食時間確保のため、（1）を 2 番目におこなった）
  - (1) 体育祭・秋輝祭及び学校生活の概要について（生徒会本部役員及び関口グループリーダー）
    - ・パワーポイントを使って生徒会の発表。

【質疑応答】

佐野委員	「きれいな街づくり」という取組を今年度よりやっており、曾屋高生 3 名に参加してもらっている。
三辻会長	どんなことを意見したか？
生徒会生徒	通学路に街頭がない、道幅が狭い、などの箇所があり部活動の帰りなどは危険を感じる。
内藤委員	震生湖で山百合の下草刈り、というボランティアを行っている。高校生にも参加してほしいがどうか？
生徒会生徒	募集をかければ、参加する生徒がいるかもしれない。
教頭・校長	去年も募集したがいなかった。場所が遠いのも一因。
内藤委員	人数が集まればバスを出すことも可。ぜひ参加を。

- (2) 学校評価に係る各グループの中間報告について（教頭より説明）

①学習支援

- ・新カリキュラムを現在編成中である。今年度中に完成。
- ・「探究の時間」は福祉・進路に関する体験学習を発表形式でおこなう。来年度に向けてさらに良い形を模索中。
- ・夏季福祉体験に関しては、なかなか増加は難しい。

⑤学校管理・運営

- ・防災については、地域の防災倉庫設置など今後さらに発展する可能性あり。

【質疑応答】

佐野委員	現在調整中の防災倉庫は下落合のものであり、場所が不便ではないかと少し混乱している。本来、市が全体の調整をするのではないかと。現在第2避難所としてどのような状況か？
三辻会長	先日の台風の時の避難数は？
事務長	男性4名、女子2名、計6名。
校長	防災倉庫の調整は市も関わって行っている。第2避難所という位置づけだが、第1避難所のサブという捉え方はしていない。必要なら（生徒の学習活動に支障がない限り）いつでも協力する。防災倉庫にしてもそのスタンスは変わらない。

【河合校長より】

- ・来年度は新たな4年間の取組初年度なので、目標設定に時間がかかることが見込まれる。したがって、令和2年度第1回学校運営協議会は4月ではなく5月になるかもしれない。

(3) 上級学校訪問と進路状況について（大谷グループサブリーダー）

- ・上級学校訪問は、今年度も概ね好評だったというデータとなっている。3年生の進路決定率が高まっているのは、定員厳格化と新入試導入の関係で、A0・推薦で早く確実に進路決定したと考えられる。

【質疑応答】

三辻会長	指定校推薦が増えたのは、指定校推薦の数が増えたからか？
大谷教諭	そうではない。「早く確実に」という希望が増加した。
三辻会長	「入れればいい」という安易な決定になっていないか？
大谷教諭	例年教員の思いと生徒・保護者の意識のずれがある。学校側の講習は年々増えているが、経済的な問題もあり難しい。今後の課題。

(4) 学校生活アンケートの集約結果について（教頭）

- ・何点かの項目において、昨年度より数値が上がっている。特に自宅での学習時間が格段に上がっている。

【質疑応答】

三辻会長	学習時間が増えたのは宿題が増えたからか？
教頭	理由は特定できていない。塾の時間もカウントしていることや、授業を大事にしていることが何かしら関連しているかもしれない。

(5) 「地域あいさつ広報運動」の取組について（SOYA サボ事務局・津田）

- ・取組の中で、小学生も挨拶してくれるようになり、地域交流の効果が出てきている。今後はもっと「広報」の色を出していきたい。ネーミングについてもよりキャッチーな案が出てきたら変更する。

(6) 地域防災協定締結に係る成果 (SOYA サポ事務局・事務長)

- ・第2避難所としての成果は先ほど述べた通り。防災倉庫については最初示された場所は通路をふさいでしまい不都合。校内で新しい場所を提示しており、自治会も了承した。今後認定の手続きをとる。

(7) その他 (SOYA サポ事務局・津田)

- ・今までは地域に本校生徒が出て行ったが、今後今日のSOYA フェスタのように地域の方を呼び込む取組もしていく。

#### 4 協議

(1) SOYA ターキーフェスタの取組をより発展・充実させるための方法について

(SOYA サポ事務局・齋藤)

- ・今年度は本校学校行事であるターキーフェスティバルと、SOYA フェスタを合体させた行事として誕生させた。外部地域団体として「MK ダンス」と「観光和太鼓」を招待し出演していただいた。また「社会福祉協議会」と福祉団体の「進和学園」を招き、ブースを設置し販売等をおこなった。今後どのような形でおこなったらよいか、ご意見をいただきたい。

参加者：保護者 33 名。2つの参加団体関係者 15 名。一般 34 名。

MK ダンス出演者 40 名。その関係者約 40 名。観光和太鼓出演者 13 名。

合計来校者 175 名。

#### 【質疑応答】

佐野委員	一般参加者が豚汁を食べられない、という状況を改善できないか？販売という形式にしてもよいのではないか？
齋藤教諭	一般提供については本校でも検討した。1つ目の理由は、衛生上の理由。2つ目の理由は、鍋などの調理器具が生徒分の用意しかない。
校長	そういう意見は当然想定されたが今回はこの形で行った。今後、地域の人には地域の人が提供できる食べ物があってもよいかもしれない。
三辻会長	外部団体の参加についての評価は？来年も来てくれるのか？
齋藤教諭	MK ダンスは本校生徒とも関係が深い。和太鼓は生徒にも体験の機会があるなど好評であった。両団体ともぜひ来年も、と言ってくれていた。
三辻会長	今後、中学校や小学校の団体との連携は考えているか？
小山田委員	本校ではバザーをおこない、地域の方にも開放し、本校部活動発表をやっている。バザーがあるので集客が良い。
三辻会長	次年度以降、防災の要素を入れられないか？PTA で何か出し物はできないか？
井上委員	販売で手一杯である。前日から仕事を休んで来てきているのでこれ以上は難しい。
校長	地域と一緒に防災訓練をやりたいという気持ちがある。炊き出しについても齋藤教諭と話をしている。

笹尾総括教諭	そのような構想もあった。今年は滑り出しが遅かったので間に合わなかったが、来年度は何か考えたいと思っている。かつてやった非常食の喫食や、防災グッズの配布もよいと思っている。しかし今日見たところでは教員の手がいっぱいである。
三辻会長	各委員からひとことずつ今日の感想をお願いします。
井上委員	初めてで、おでんの見込み数など難しかった。地域団体とその家族が楽しんだようで良かったと思う。
鳥海委員	今回は初めての試みで成功したように思う。今後どう発展していかは我々の責務でもある。同窓会としても何らかのお手伝いできればと思っている。
内藤委員	来年、明治大学マンドリンの発表をやる。生徒でも参観希望がいたら20人ほど招待したい。
佐野委員	来年度も地域の参加が見込まれるのでは。前向きにすすめたい。
小山田委員	このように県立高校が地域の方を招いた試みをしていることに敬意を表したい。義務教育でもコミュニティ・スクールが始まっている。働き方改革と逆行するようでは困るが、参考にさせていただきたい。

#### 5 その他（副校長）

- ・今後の予定について確認を行った。第4回学校運営協議会は3月中旬・下旬を予定している。
- ・今後の予定は、本日欠席の方もいるので、後日メールで調整する。
- ・（校長）委員の任期がここで切れる。基本的には継続願いたいですが、本業との兼ね合い等で難しい場合は欠員が出る。その場合の新しい方の選出については、会長と相談の上決定させていただきたい。

#### 6 閉会挨拶（教頭）